



「ご献体の日」に伴い環境整備活動を行いました

総務課 課長 やまさき けんじ
山崎 健治

島根大学では、昨年3月に医学部の解剖学実習のために提供されたご献体に関する不適切な取扱い事案が発覚し、今後、二度とこのようなことを起こすことがないように、3月10日を「ご献体の日」と決めました。

「ご献体の日」の取り組みの一環として、3月7日には出雲キャンパス内の慰霊碑「医の扉」周辺の落ち葉拾い、3月11日には本学の納骨塔がある当院近くの神門寺において、鬼形医学部長や椎名病院長をはじめ、教職員及び学生有志による落ち葉拾いや除草等の環境整備を実施しました。

改めて再発の防止を誓うとともに、ご献体への感謝の気持ちと畏敬の念をあらたにしました。

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

5月15日～6月14日

対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
6/3(土)	第35回島根県がん登録研修会	オンライン配信(ZOOM) ※会場にはお越しいただけません	医療	島根県がん診療ネットワーク協議会がん登録部会 実務担当者研究会 島根県健康福祉部健康推進課 島根大学医学部附属病院

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



NEWS



CONTENTS

・病院長補佐就任のご挨拶

・「ご献体の日」に伴い環境整備活動を行いました

・研修会・講演会・セミナー開催情報

病院長補佐就任のご挨拶



改革担当

精神医学講座 教授

いなぎ まさとし
稲垣 正俊

この度、病院長補佐を拝命いたしました。「地域医療と先進医療が調和する大学病院」の理念の基に、患者さんの視点に立った、安全・安心で満足度の高い医療の実践を目指してまいります。

先進医療により今まで困難であった病気の治療が可能となってきていますが、同時に、患者さんの身体的な問題だけでなく、心理的な苦痛や、社会経済的な心配事に対する支援を含めた総合的な治療・支援が求められています。

病院全体で、理念に向かって進めるよう尽力して参ります。皆様方のご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

経営担当

歯科口腔外科学講座 教授

かの たかひろ
管野 貴浩



この4月より、病院長補佐（経営担当）を拝命いたしました管野貴浩でございます。2020年4月より、歯科口腔外科学講座教授および附属病院歯科口腔外科・顎顔面インプラントセンター・口腔ケアセンターの診療科長として、診療・研究・教育・地域および国際貢献に誠意をもって取り組んで参りました。医療を取り巻く環境が早いスピードで変化する中で、地域基幹特定機能病院である当院が、患者さん方への“地域医療と先進医療が調和した”より良い医療提供はもとより、教育や研究も含めた大学病院としての使命を継続的に果たしていけるよう努力して参ります。病院長補佐として「病院長に付いてその仕事をたすけ、その務めを果たさせること」で、椎名病院長が掲げる「患者さんを幸せに、地域の中で果たすべき役割を認識し、地域に愛される病院」として安心と安全をご提供できるよう、職務に鋭意取り組んで参ります。何卒よろしくお願い申し上げます。



経営担当

高度脳卒中センター 教授

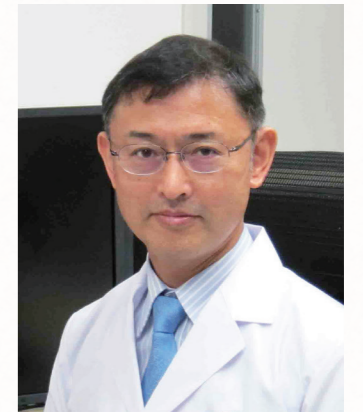
はやし けんたろう
林 健太郎

当院に赴任し3年になりますが、皆様方にご支援賜り、高度脳卒中センターも軌道に乗ってきています。その間、材料部長として医療機器の審査を担当して参りましたが、この度、病院長補佐（経営担当）を拝命いたしました。当院は病院長のリーダーシップのもとに職員一同、力を合わせて課題を乗り越えています。微力ではございますが、病院長を補佐し、病院経営に貢献できればと考えています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

安全管理担当

放射線医学講座 教授

かじ やすし
楯 靖

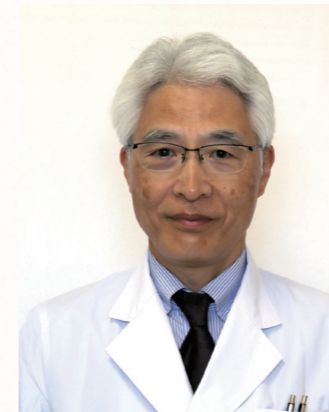


2023年4月より安全管理担当の病院長補佐を拝命いたしました放射線医学講座・放射線部の楯靖です。中央部門である放射線部内の医療安全に関しては、これまでも被ばく管理、造影剤副作用対応、読影レポート未読管理などに対応してきました。椎名病院長から示される病院としてのポリシーを全教職員が共有し、安全を最優先とする対応が院内全体にいきわたるように力を尽くします。皆様のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

安全管理担当

薬剤部 教授

なおり こうじ
直良 浩司

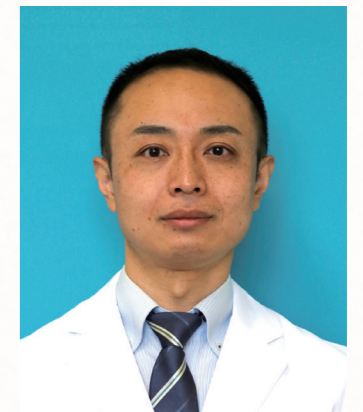


この4月から病院長補佐（安全管理担当）を拝命いたしました薬剤部の直良浩司です。これまで医薬品安全管理責任者ならびに麻薬管理者として院内の医薬品の安全使用や適正管理に努めてきました。昨今、安定供給が危ぶまれる品目が続出する事態となっており、医薬品の安全管理とともに安定確保についても重要課題と認識しています。微力ではありますが、安心・安全な医療が提供できる環境整備に取り組んで参ります。ご指導ならびに情報共有等、よろしくお願い申し上げます。

研究・教育担当

病理学講座器官病理学 教授

かどた きゅういち
門田 球一



本年4月より病院長補佐（研究・教育担当）を拝命しました門田球一です。私の専門は病理学で、当院では2021年4月から、病理部長兼病理診断科長として病理診断や病理解剖業務の運営に携わり、医学部では病理学講座の教授として基礎医学の教育を担当してきました。今後は、病院長および副病院長の先生方を補佐する立場で、臨床医学と基礎医学分野の橋渡しの役割を担いながら、当院における医学研究と教育の発展と活性化を目指して、微力ながら尽力したいと考えております。どうか皆さまからのご支援をお願いいたします。

研究・教育担当

内科学講座血液・腫瘍内科学 教授

すずき りつろう
鈴木 律朗



本年4月より、病院長補佐を拝命しました医学部血液・腫瘍内科学の鈴木律朗です。大学病院では、血液内科の診療科長も務めております。当院のような大学病院には診療のほかに研究の責務があり、毎年一定以上の論文を出すことが特定機能病院の要件と定められています。医学研究を行うことは、直接的ではありませんが、診療の質の向上につながります。また大学病院には、学生教育、研修医教育、さらには若手医師の専門教育や、もっと年長の医師の生涯教育という責務もあります。これは当院のみならず、山陰地区全体の医療の向上に資するものであります。私はこうした方面に関して、微力ながら果たせる役割をこなしていきたいと考えています。皆さまには、ご支援ご協力をよろしくお願い致します。



島大病院ニュース 2023年5月

ご報告

写真1 放射線治療棟の外観



写真2 診察室

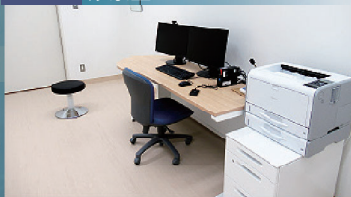


写真3 放射線治療機器(Radixact)



写真4 放射線治療機器(True Beam)



新しい放射線治療棟がいよいよ稼働を始めます

放射線治療科 准教授 玉置 幸久 たまき ゆきひさ

当院の放射線治療施設は1979年に建設され、老朽化が目立ってきました。また2台の放射線治療機器も更新の時期を迎えていました。

そこで、島根大学ビジョン2021に放射線治療施設整備計画が盛り込まれ、新しく放射線治療棟が建設されました(写真1)。新しい放射線治療棟は外部照射を行う放射線治療室2室のほか、密封小線源治療室、温熱治療室があり、さらに操作室や診察室、処置室などが配置されています(写真2)。

また、同時に2台の高性能の放射線治療機器も導入いたしました。導入される放射線治療機器はRadixact(ラディザクト)とTrue Beam(トゥルービーム)です。Radixactは高精度放射線治療に強みを持ち、呼吸で動く腫瘍に対して照射ビームを追尾することができる動体追尾照射機能を搭載しています。True Beamは3種類のX線と5種類の電子線を出すことができ、シンプルな照射から高精度放射線治療まで様々なタイプの治療を行うことができる汎用性の高い治療機器です。この両者を組み合わせて、痛みを取る緩和治療から、高精度のピンポイント照射まで、病状や患者さんの状態などに応じたきめ細かな放射線治療を行うことができます。

新しい放射線治療棟は2023年5月1日よりいよいよ稼働を始めます。高性能な放射線治療機器を駆使し、患者さんに質の高い放射線治療を提供すべくこれからも精進を重ねて参ります。



島大病院ニュース 2023年5月

ご報告



服部学長からの挨拶

内覧会の様子

放射線治療棟竣工記念式典を開催しました

総務課総務係

放射線治療棟の竣工に伴い、記念式典を執り行いました。2023年4月29日(土・祝)10時から当院玄関ホールにおいて「島根大学医学部附属病院放射線治療棟竣工記念式典」及び内覧会を開催しました。

記念式典には、48名のご来賓の方々にお越しいただき、文部科学省高等教育局医学教育課の永田昭浩大学病院支援室長から、俵幸嗣医学教育課長のご祝辞を、また島根県健康福祉部の安食治外部長から、丸山達也島根県知事のご祝辞を賜りました。また、服部泰直学長より挨拶があり、式典は盛大に催されました。

式典終了後は、放射線治療棟に移動しテープカットを行った後、内覧会を開催いたしました。

この放射線治療棟の完成により、地域のがん医療の最後の砦となる「都道府県がん診療連携拠点病院」としての責務を果たすとともに、県内の患者さんへより高度な放射線治療を提供し、短時間・高精度の放射線治療につなげます。

また、今後は放射線治療医が不足している島根県内において、充実した環境で放射線治療専門医の育成を行い、県内全域に適正な医師の派遣につなげたいと考えています。

問合せ先 総務課総務係 TEL: 0853-20-2506



2023年5月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2023年5月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2023年5月

ご報告



島大病院ニュース 2023年5月

ご報告

消化管がんおよび頭頸部がんに対する内視鏡治療 ～麻酔科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科とのコラボレーション～

光学医療診療部 部長 しばがき こうたろう
柴垣 広太郎

検診で発見される消化管がんの多くは早期がんであり、その多くが内視鏡的切除で治療します。しかし、食道のように管腔が狭い臓器やサイズが大きい腫瘍では内視鏡的切除が難しく、合併症も多くなります。

現在、私たちは麻酔科の先生方と手術室のスタッフの方々にご協力を頂き、難易度の高い内視鏡治療症例は全身麻酔下で行っています。特に食道がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）の多くは、全身麻酔で行っており、これまで穿孔などの合併症を認めていません。全身管理を安心して任せられるため、内視鏡医は手技に集中することができ、切除速度も静脈麻酔と比較して1.5倍と速くなります。また、これまで静脈麻酔ではできなかった浸水下食道ESDも可能となりました。浸水下では病変が水中に浮き上がり、切除する層が厚くなるため、食道筋層の熱変性を予防でき、治療後の食道狭窄の予防に役立っています。

さらに最近では、咽頭がんや喉頭がんに対する内視鏡治療も積極的に行っています。耳鼻咽喉科・頭頸部外科の先生に術野を作って頂き、消化管内視鏡医が病変を切除する合同手術（ELPS）は2022年度の咽喉頭がん手術件数の半数以上を占めるようになりました。

各診療科の技術を集結して1人の患者さんの治療を行うことで、安全で精度の高い内視鏡治療を行っております。現在、当院では内視鏡的治療で治療が見込まれる症例に対して、技術的難易度が高いという理由で外科手術を行うことはほぼありません。各医療機関の先生方におかれましては、安心して患者さんをご紹介くださいますようお願い申し上げます。

問合せ先 光学医療診療部 TEL：0853-20-2414

教授就任のご挨拶

消化器・総合外科学 教授 ひだか まさあき
日高 匡章



2023年4月1日付で、消化器・総合外科学教授を拝命しました日高匡章と申します。就任のご挨拶申し上げます。

宮城県出身で1999年長崎大学を卒業し、長崎大学第二外科（現、移植・消化器外科）へ入局、その後関連病院で研鑽を積んだ後、肝胆膵外科・肝移植を専攻とし、手術、臨床研究、大学院生と基礎研究を行ってきました。2008年フランス・パリ大学ボジヨン病院へ留学し、肝胆膵外科・脳死肝移植を学びました。2011年から2年間山口県立総合医療センターにて消化管外科・外傷・化学療法など地域医療を経験しました。2013年帰学、2019年イタリア・ウディネ大学にてHIV/HCV重複感染者に対する肝移植の研究や脳死ドナー摘出・肝・腎移植を経験し、2023年4月現職に就任しました。

消化器・総合外科学の前任教授田島先生は長崎大学での恩師です。田島先生が築き上げた教室を引き継ぐ事は大変光栄です。

島根県は高齢者の割合が多く、地域の外科医療を支える人材育成が教室の責務です。また大学病院での最先端医療として、ロボット支援下手術を各臓器（食道・胃・直腸・肝臓・膵臓）で行っております。当院は本邦初生体肝移植を行った施設ですので、是非再開できるチーム作りを行いたいと思います。肝移植医療は病院の総合力が必要ですので、様々な職種の方々と密に連携させて頂きたいと思います。

若輩者ですが、島根県の地域医療、外科医療のため誠心誠意働いていく所存です。どうぞご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

問合せ先 外科外来 TEL：0853-20-2384



2023年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2023年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告

教授就任のご挨拶

麻酔科学講座 教授 にかい てつろう
二階 哲朗



このたび麻酔科学講座の教授に就任しました二階哲朗と申します。私は1994年長崎大学卒業ののち、1997年より島根大学で勤務しています。麻酔科では患者さんの安全・安心を提供できる充実した周術期管理、先進的な全身管理を行う集中治療、緩和医療との協力、この3つを柱にこれまで以上に医療に貢献していきたいと考えています。それゆえこのたびは麻酔科診療科長とともに集中治療部および手術部の部長を併任しております。

私たち麻酔科医は、麻酔、疼痛管理そして全身管理の技術を駆使し、全人的に患者さんの診療にあたりますが、その際には各科の医師と連携を取るだけでなく、同時に多職種連携をもって横断的に診療を行うことを目標に掲げています。周術期管理では周術期管理チームが術前の患者さんがベストの状態です。手術にのぞめるよう全身状態の改善を目指します。また集中治療では、侵襲的状态からの早期離床のための早期離床チーム、栄養を改善するICU-NST、また集中治療終了後の全身状態をフォローするためのCritical Care Outreach Team (CCOT) が活動しています。看護師、歯科医、歯科衛生士、管理栄養士、理学療法士、言語聴覚士、臨床工学技士、薬剤師、医療クラークなどあらゆる職種とチーム医療を展開し、これからも麻酔科は一丸となり患者さん中心の医療を展開できるよう周術期、集中治療に貢献してまいります。どうぞ今後とも、麻酔科を宜しく願います。



周術期管理チーム構成員

問合せ先 麻酔科 医局 TEL : 0853-20-2295



ご報告

輸血部長就任のご挨拶

輸血部 部長 いのうえ まさや
井上 政弥



4月より輸血部長を拝命いたしました井上政弥と申します。

当院の輸血部は、輸血療法に関連する各種指針に基づいて、安全で適正な輸血と細胞治療を提供するよう取り組んでいます。

私自身は、これまで当院で血液内科と腫瘍内科医師として診療に従事し、2016年より輸血部に所属し、当院の輸血・細胞治療業務だけでなく島根県輸血療法合同委員会における島根県内の安心で適切な輸血の実施に関して対応してきました。

当院は地域の中核病院であり、高度外傷センターにおける多発外傷や、産科DICを伴う大量出血、心臓血管外科手術などでの緊急かつ大量の血液製剤が必要となる場合があります。そのような状況にも対応できるよう輸血業務は検査部と協力して、24時間体制で対応しています。今後も、血液製剤の適正使用と安全な輸血医療が提供できるように努めてまいります。

細胞治療においては、造血幹細胞移植における造血幹細胞の採取・保存処理等を行っております。また、ヒト(同種)骨髄由来間葉系幹細胞による造血幹細胞移植後の急性移植片対宿主病の治療やキメラ抗原受容体T細胞(CAR-T)によるびまん性大細胞型B細胞リンパ腫とB細胞性急性リンパ芽球性白血病に対する治療への支援も行っております。細胞治療は、がん治療などで重要な要素となっており、今後も細胞治療の支援ができる体制を整えていきたいと考えております。

輸血部の業務は、他の診療科・部門・センターとの連携でなっております。引き続きご指導のほどよろしくお願い致します。

問合せ先 輸血部 TEL : 0853-20-2421





ご報告



ご報告

総合ハートセンター センター長就任のご挨拶

総合ハートセンター センター長 えんどう あきひろ
遠藤 昭博

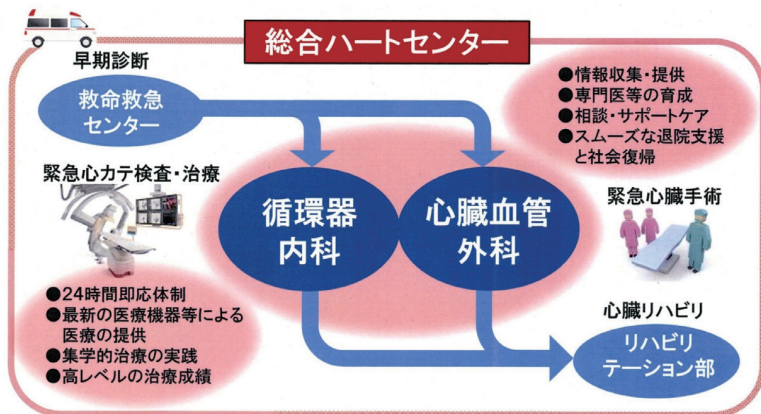


この度、総合ハートセンター長を拝命いたしました遠藤昭博と申します。就任のご挨拶を申し上げます。

私が専門にしております循環器疾患は緊急性の高いものが多く、救急診療の場においても特に迅速で正確な診断・治療が求められます。その最たるものが急性冠症候群で、発症から治療開始までの時間がその後の予後に大きく影響します。総合ハートセンターは急性冠症候群に対する緊急心臓カテーテル検査・治療を24時間即応態勢で強化し、循環器内科・心臓血管外科・救命救急センター・リハビリテーション部をはじめとする院内関連部署が綿密に連携して集学的治療を行うことを目的として2017年7月に設立されました。患者さんの救命から社会復帰までがスムーズに進むようサポートして参ります。

総合ハートセンターのもう一つの大きな柱が心臓弁膜症に対するカテーテル治療です。当院では大動脈弁狭窄症に対するTAMI(経カテーテル大動脈弁留置術)を2018年から開始し、非常に良好な成果をあげております。さらに本年3月から、弁膜症に対するカテーテル手術の第二弾として僧帽弁閉鎖不全症に対するMitraClip(経皮的僧帽弁接合不全修復術)を開始いたしました。これらの低侵襲治療は高齢者の多い島根県においては益々需要が高まるものと思われまます。

総合ハートセンターとして院内の多くの部署がシームレスに連携することにより、大学病院ならではの高い組織力を最大限に発揮して高度先進医療を安全に提供できるよう努めて参りたいと思います。皆様のご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



ホットライン

TEL 070-5672-8109(循環器内科)

TEL 070-5525-0086(心臓血管外科)

ワークライフバランス支援室 室長就任のご挨拶

ワークライフバランス支援室 室長 かわかみ としえ
川上 利枝



このたびワークライフバランス支援室室長を拝命いたしました看護部長の川上利枝です。よろしくお願いいたします。

当院のワークライフバランス支援は、2006年「女性にやさしい病院WG」の発足を基に、2010年度からは「ワークライフバランス支援室」と改称し、医学部・医療技術職等の多職種室員により継続して活動を行っています。

これまでの主な活動として、女性医師のマタニティ白衣開発、院内保育所、学童保育の開設、支援制度の情報発信、『ワークライフバランス川柳』『各部署のワークライフバランス実践例』を募集し、職員がワークライフバランスについて考えるきっかけを提供することや、地域医療支援学講座、島根大学ダイバーシティ推進室と共催してワークライフバランスセミナーを開催するなど、楽しく幅広く活動してきました。

これからもすべての職員が「仕事と家庭の調和」を実現できる職場づくりをめざして、これまでの歩みを大切に、多職種で協働し活動を継続していきたいと思ひます。

ご指導ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

問合せ先 ワークライフバランス支援室 TEL : 0853-20-2534





ご報告

島根で唯一!

日本胃癌学会認定施設Aに当院が認定されました

消化器外科 助教 まつばら たけし
松原 毅

わが国の胃癌治療の進歩はめざましく、その内容は高度化・多様化・専門化そして複雑化しております。そのため、胃癌の診療は複数の診療科が関与し診断・治療を進めていくことが求められています。手術の場合、病院当たりの手術症例数や術後合併症の有無が患者さんの予後に影響することが分かっており、侵襲の少ない手術を普及させていくことが重要と言えるでしょう。このような現状を踏まえ、日本胃癌学会は適切で質の高い胃癌治療を提供できる施設を認定する制度を発足しました。



当院での低侵襲手術(ロボット手術)の様子



日本胃癌学会認定施設認定証

認定施設に認定されるためには診療実績はもちろん、論文・学会業績、消化器内科医、外科医、病理医が常勤していることなどの14項目の申請条件を満たす必要があります。当院は其中でも最も資格基準の厳しい施設認定Aに認定されました。認定施設Aは2023年3月現在全国で127病院のみしか指定されておらず、島根県内では唯一当院のみとなります。

この制度により患者さんに安心して、最新の胃癌診療を受けていただくことが可能となると考えています。当院はこれからも知識と技術の向上に精進し、医療スタッフとの連携を強化し、予後の向上に努め地域に貢献したいと考えております。今後ともご支援・ご協力の程、何卒よろしくごお願い申し上げます。

問合せ先 外科外来 TEL: 0853-20-2384



ご報告

新人看護職が入職いたしました!!

看護部 看護教育支援室 看護師長 たけもと かずよ
竹本 和代

当院の看護部に新しく67名が希望を胸に入職いたしました。入職時研修では、社会人・組織人として、病院・看護部の概要や職務を理解することから始め、教育体制、医療安全、感染管理などの講義や輸液管理の演習などを行いました。また、今年度の新人看護職は学生時代の3年間をコロナ禍で過ごし、臨床現場、対面での演習の時間も少なかった状況があり、自部署で現場の看護を経験したのち、BLS (Basic Life Support) 研修等多職種やチーム医療について再度集合研修で学び、習得につながるようにしました。

対面での他者とのコミュニケーション経験が少ない新人看護職が現場に出て、これまでの教育の場とのギャップに戸惑い、困難なことに出会った時の手助けになるようメンタルヘルスケアについて、出雲保健管理センターの臨床心理士より講義をしていただきました。社会人・専門職業人としての役割を果たすためにも、困り事を一人で抱え込まず誰かに相談し、自分自身で心身の健康管理を意識して行えるようサポートしていきます。

現在、新人看護職は先輩看護師の指導を受けながら、患者さんへの看護実践に真摯に取り組んでいるところです。看護部の理念である「地域に信頼される質の高い看護の提供」を目指し頑張っていきますので、温かい目で応援をお願いします。



感染管理でのPPE (Personal Protective Equipment) の取り扱い演習



先輩指導者とともに輸液管理演習



多職種とチームを組んだBLS研修





ご報告

第1回島根大学病院 ICLS指導者養成ワークショップを開催しました！

院内救急・合併症対策支援センター 副センター長 しもじょう よしひで 下条 芳秀

当院では院内救急部門の活動の一つとして、2019年4月にRapid Response System (RRS；院内迅速対応システム)を構築し、患者さんの状態悪化を早期に認知し、治療介入することで予期せぬ心停止を予防する活動を行っています。しかし、少なからず予期しない心停止に対応せざるを得ないこともあり、院内スタッフの蘇生の質を上げ、救命率の向上を図ることが求められています。

2023年3月5日(日)にクリニカルスキルアップセンターにて第1回島根大学病院 ICLS (Immediate Cardiac Life Support) 指導者養成ワークショップを開催しました。遠藤篤也看護師、鴨山桂子看護師、小村悠太看護師、阿部啓太救命士、松岡冴救命士の5名が受講しインストラクターになる資格を取得しました(写真1)。今後、院内のICLSインストラクター増員により、コース開催が増え、看護師を中心とした院内での蘇生の質の向上に寄与するものと考えています。

引き続き、院内スタッフ一丸となって予期しない院内心停止ゼロを目指して努力してまいります。

問合せ先 Acute Care Surgery 講座 秘書室 TEL : 0853-20-2757



ご報告



世界緑内障週間 「ライトアップinグリーン運動」 出雲大社、TSK本社鉄塔などをライトアップしました

眼科学講座 くろめ なおこ 黒目 奈穂子

2023年3月12日(日)～18日(土)の世界緑内障週間に、出雲大社、山陰中央テレビ(TSK)本社鉄塔、および島根大学医学部附属病院玄関ホール、山陰両県の多数の医療機関を緑内障のシンボルカラーであるグリーンにライトアップしました。今年から、当科が運動の事務局となり全国でも約1,200カ所がライトアップされました。

この運動は、多くの方に緑内障について、認知・理解と緑内障の発見のための受診の重要性を広く知っていただくための啓発活動です。

伝えたいメッセージは、「早期発見・継続治療」と「希望」です。「希望」には仲間や家族や主治医など支える人とともに治療をして「あなたの眼がずっと見えていますように」という思いを込めています。

この運動が緑内障の早期発見そして失明予防につながることを願って、今後も続けていきたいと思っています。

問合せ先 眼科学講座事務局 TEL : 0853-20-2284





手術部におけるSDGsへの取り組み ～「ぬかのめぐみドレープ」を導入～

手術部 副看護師長
看護師長
形成外科 准教授

やまさき ゆうこ
山崎 祐子
はら めぐみ
原 恵
はやしだ けんじ
林田 健志

手術では、手術部位感染を予防する目的に皮膚の消毒を行います。そのため、消毒液や洗浄液によって、手術創周囲皮膚の浸軟による皮膚障害を起こすことがあります。

手術部では、海外メーカーのテープ付きドレープを患者さんへ貼付し、上記障害への予防的介入を行ってききましたが、製品の変更や物流停滞などにより、ドレープの使用が困難な状況が発生してしまいました。そこで製品の安定した供給と品質改善を期待し、国内企業と相談・連携して新たなテープ付きドレープを開発しました。

本製品の特徴は、バイオマス成分である“米ぬか”を利用した点にあります。日進 FULFIL 社製米ぬかシートは抗菌効果、消臭効果が証明されており、さらに国内メーカーの医療用テープを用いて、テープ幅やサイズにこだわり作成しました。ドレープ類は手術後即座に廃棄物となるため、このバイオマスドレープは従来のビニールに比べて、CO2 排出量の削減などにも寄与できます。現在、各診療科での使用が進んでおり、「適度な強度があり良い」「貼りやすく剥がしやすい」などの高い評価を得ています。テープ付きドレープとして患者さん保護目的の機能性も問題なく、皮膚保護の一助として有益な活用に至っています。

小さな一歩ではありますが、手術部でも SDGs へ貢献し、患者さんの安全と安心を第一に取り組んでいきたいと思えます。

問合せ先 手術部 TEL : 0853-20-2430



「ぬかのめぐみドレープ」を皮膚に貼付している様子



「ぬかのめぐみドレープ」が消毒液の流れ込みを防ぎ皮膚を保護している様子

